

興味を惹く看板についての調査

下辻明音

(横浜市立野毛山動物園)

野毛山動物園では、インドクジャク (*Pavo cristatus*) とニホンキジ (*Phasianus colchicus*) を飼育し、展示している。当初、二種を展示しているキジ舎では種名看板以外の掲示物がなく、来園者は軽く展示個体を見るだけで、学びを得られる機会が少なかった。本研究では、キジ舎に「読むだけ」の看板と、シールを用いた投票を行う「参加型」の看板を設置し、来園者の滞在時間を比較することで、どのような掲示物が来園者の興味をより惹くことができるか調査した。また、滞在時間と併せて、来園者のグループ構成、来園者が詳しく知りたいジャンル、発話内容、撮影の有無を調査した。

分析の結果、参加型の看板は来園者の滞在時間を延ばす効果を認めた。このことから、参加型の看板が来園者の興味を惹くと考えられる。また、家族連れおよび男女二人組での来園者が多く、特に男女二人組は滞在時間が長い傾向にあった。投票の結果、来園者がより詳しく知りたい内容は「クジャクの生態」についてであり、発話調査から「クジャクが羽を広げること」に興味関心を抱く来園者と、キジに対して「桃太郎」の印象を抱く来園者が多いことも判明した。なお、撮影の有無と、解説板の有無に関係性は見られなかった。